

科目名	日本王朝文化論特講	担当者	オタギリ 小田切 フミヒロ 文洋	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	---------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>『源氏物語』を中心とした古典文学の理解を通して、日本文学の豊かさや多様性を理解するとともに、広く日本文学研究の基礎を学ぶ。『源氏物語』は、例えば三田村雅子『記憶の中の源氏物語』（新潮社、2008年）のような享受の歴史に関わる興味深い書物が書かれているように、後世の文学に多大な影響を与えている。『源氏物語』から日本の古典文学の流れをたどることができる。</p> <p>胡潔(中国)『平安貴族の婚姻慣習と源氏物語』（風間書房、2001年）、金孝淑(韓国)『源氏物語の言葉と異国』（早稲田大学出版部、2010年）、河添房江『源氏物語と東アジア世界』（日本放送出版協会、2007年）、新聞一美『源氏物語と白居易の文学』（和泉書院、2003年）のような『源氏物語』関係の書物のタイトルを見れば、『源氏物語』の作品世界の奥行きの高さが分るとともに、新たな研究の可能性も見えてくるだろう。</p>		
到達目標	<p>『源氏物語』を中心とした古典文学に親しみ、理解を深めていくことがまず大きな目標になる。『源氏物語』の多様な研究の世界にも触れ、研究の方法や資料の分析法など古典文学研究の基礎力を養うことも大事なことだと考える。</p>		
学修方法	<p>まず作品を丁寧に読みこみ、自分なりの理解を持つことが大事である。同時に、『日本国語大辞典 第二版』や『大漢和辞典』など、各種の辞典や参考書の活用法を身に付けることも目標になる。</p> <p>研究論文の調査には、CiNii (http://www.nii.ac.jp/)や、国文学論文目録データベース (http://basel.nijl.ac.jp/~ronbun/)、石黒吉次郎監修『日本文学研究文献要覧 古典文学 2000～2004』日外アソシエート、2006年、『国文学年次別論集 中古』学術文献刊行会、1987年～などを利用してください。文献の調べ方や活用法について疑問があれば質問してください。</p>		
スケジュール	<p>レポートの最終提出日の一か月前に草稿を提出してください。直接指導が必要であれば、メールをしてください。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	75%	どれだけ問題意識をもって取り組んだかを評価します。必ずしも専門知識を求めません。
	平常評価	25%	レポート提出前の質疑応答など積極的な取り組みを評価します。
履修者への要望	<p>基本教材1、また2について、受講者それぞれの研究テーマに応じ、課題内容を変更することは可能なので、受講前に相談してほしい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 『源氏物語』のテキストをお持ちでしたらそれをお使いください。 教材名： 玉上琢彌訳注『源氏物語』（全十巻）角川ソフィア文庫（820～980 円）の中から必要な巻を求めてください。
	藤原道長を頂点とした一条朝文化の隆盛にともない、多彩な文学作品が生み出された。和歌集の『拾遺和歌集』、漢詩集の『本朝麗藻』、日記の『和泉式部日記』『紫式部日記』、なかでも質・量ともに他の作品を凌駕するのが『源氏物語』である。『源氏物語』は、アジアの言語やヨーロッパの言語に翻訳されている。世界で読まれている日本の古典の代表的作品である。
参考図書	阿部秋生・秋山虔他校注訳『源氏物語 ①～⑥』（新編日本古典文学全集）小学館、1994～98 年 柳井滋・室伏信助他校注『源氏物語 一～五』（新日本古典文学大系）岩波書店、1993～97 年 石田穰二・清水好子『源氏物語一～八』（新潮日本古典集成）新潮社、1976～85 年 玉上琢彌『源氏物語評釈 第一巻～第十二巻』角川書店、1964～68 年 鈴木一雄監修『源氏物語の鑑賞と基礎知識 桐壺～夢の浮橋』至文堂、1999～2005 年 いずれも高価であったり、入手困難であったりするので、図書館で利用してください。
履修上のポイント	大部な物語なので、まずは、第四十一帖「幻」巻までの正編といわれる光源氏を主人公とする物語の流れを理解するように努める。その際、主となる出来事と主人公の年齢とを組み合わせる年表にした年立を利用するとよい。おおよその筋が頭に入ったら、次に物語がどのように組み立てられているか、また表現や文体の特徴を理解するようにしてください。
レポート課題 1	「須磨」「明石」の巻を読む 留意点： 折口信夫の提唱した「貴種流離譚」という話型概念を検証するとともに、白居易など漢詩文の引用の意味を考える。
レポート課題 2	「絵合」の巻を読む 留意点： 物語と絵の関係など物語の享受のあり方を考えるとともに、『源氏物語』に至る物語の流れを考える。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 基本教材 1 に同じ 教材名： 基本教材 1 に同じ
	基本教材 1 に同じ
参考図書	基本教材 1 に同じ
履修上のポイント	基本教材 1 に同じ
レポート課題 1	「玉鬘」巻を読む 留意点： 六条院の造営と玉鬘再登場の意味を論ずるとともに、玉鬘の流離の物語が物語構想の中でなぜ必要かを考える。
レポート課題 2	「御法」「幻」巻を読む 留意点： 紫上の死の描かれ方を丁寧に読むとともに、主人公の退場がどのように予告されているかを考える。